

PRINTiCA は、トロント市の中心部のD I印刷会社をサービス拠点として買収  
PRINTiCA Digital Management 会社はカナダのトロント市の WPA 会員会社、Press Direct  
社を昨年 8 月、買収したが、トロントの歴史的な金融地区での従来印刷、新印刷のビジネ  
ス需要をこなす意図を持っていた。PRINTiCA の経営者は印刷とアートの世界で 55 年もの  
キャリアを持つが、変わった見解の持ち主であった。会社案内から引用すると、「印刷工業  
とは、芸術と商売の結婚と見る。」としている。このユニークな関連づけは、数百年の歴史  
をもつ我々の世界を歪めてくれるものだ。他のどんなメディアも、印刷の持つ、感動、教  
育、動機付け、啓蒙の力には及ばないと言う、しかも、安価にすることができる。デザ  
イン、プリメディア、倉庫、配布にまたがる領域をこなしているが、印刷は明らかに、PRINTiCA  
社のビジネスの中心である。



トロント市はカナダの金融中心都市で、76000 企業があり、980 億ドルの GDP である。PRINTiCA はト  
ロント市の中心部、立地の良い所にある。



「モノクロを飛び越えることを考える」PRINTiCA Dalmation 社  
のมาสコット(名前がついていない)が言っている。

スローガン(標語)「モノクロを飛び越えることを考える」はまさに、同社製品の中味を突い  
ていて、会社のมาสコット、めがねをかけたダルマチア犬(名前がついていない)、黒い斑点

にはシアン、マゼンタ、イエローが色づけされいるが、彼がその象徴だ。PRINTiCA は Press Direct 社が4年前に買った Adast 755 DI・5色機をまだ、使っているが、機械は完全に整備し、最新のソフトウェアを搭載したものだ。PRINTiCA が昨年買収したとき、総支配人・Paul Vlahakis は、印刷機は能力の60%しか使われていない、と言っていた。整備することにより、イメージングは改善され、前準備時間は30分から8~15分に短縮された。Adast DI 機の持つ環境上の利点と迅速・工程短縮処理が PRINTiCA の顧客、金融会社、広告代理店、小売店、ある流通店などには受けている。単なる損紙の減少が水なし印刷の特徴ではなく、PRINTiCA のプリント・オン・ダイヤモンドのやり方が水なしの特徴なのである。証券会社や他の金融機関は、情報は週毎に月毎に変わり、余分な枚数を持たないで、必要時のものを印刷するようになってきた。同社のこなす印刷の市場分野は薬品、食品、飲料、さらに、技術、製造までになっている。ほとんどの客は国内の方であるが、PRINTiCA 社のサービスは国際的なものだ。印刷物を世界中、スペイン、キプロス、ギリシャ、英国、米国、ジャマイカ、バージン諸島、ドミニカ、エクアドルなどに発送している。発送物は国際会議、営業店会議、世界的な集まりなどである。PRINTiCA はこの種の行事を手がけ、行事にまつわる最初から最後まで印刷物を作っている。コースター、旅行パンフ、入場券収納封筒、ポスター、バナー、プレゼン印刷物やそれやで、全ては特別な顧客や会議のブランド品で世界の半周をまたいで出荷される。



十分な装備の自家製本のおかげで、PRINTiCA はどんなカラー印刷物もこの市の中心部でこなせられる。

さらなる十分なサービスを目指し、PRINTiCA は6色 HP DesignJet 5000 で大判印刷をこなしている。1m50cm 幅、60m長さの写真品質のものを、あらゆる紙、シルクや綿の素材にまで出力している。看板、バナー、電飾、壁画などを剥離可能な、張替え可能な素材にあしらっている。他方、床へのグラフィックスは衝撃・スリップ防止で強度のある、ビニール材に施される。大判出力機は展示場、ショールーム、オフィスのインテリア、デザインスタジオ、ギャラリーなどでの躍動的なイメージ・環境を作り、インパクトの高い・可視性を求めるメッセージ作りに最適である。PRINTiCA は顧客のニーズとともに成長し続けよう。George Paul の短期目標は2交替制から3交替制へとなり、大判DI印刷機を入れようとしている。彼らがこの犬にどんな名前をつけてくれるか、この印刷会社を注目し続けた

い。

一つの扉が閉まったとき

2003年3月12日、プレステックとゼロックスの共同会見で、ゼロックスはこれから DocuColor 233 DI-4、DocuColor 400 DI-4 そして DocuColor 400 DI-5 印刷機とその消耗品を販売しないと、消耗品は既に、プレステックから供給されている、と発表。ゼロックスの顧客には、プレステックが消耗品を供給し続け、今入っている Xerox DocuColor DI 印刷機のサービスを行うと知らされた。ゼロックスは、従来インキを使う DI 印刷機の市場はあるが、ドライインキベースのデジタル印刷にビジネスを集中すると、言った。その強力な勢力を iGen3 デジタル印刷機などの、デジタルプリンター、デジタル印刷機に注入して行くのだ。同時期に行われたプレステックと Kodak Polychrome Graphics の記者発表では、両社は米国、カナダ市場で KPG が DI 印刷機とその消耗品の市場参入、販売、サービスする合弁企業を設立した。新しい KPG 機は 2 ページもの 4 色リョービ製 DI 機で、プレステックの特許 ProFire™、イメージング・サーマル版技術で動く。

新しい自動 DI の処理法は KPG 社の仕様に従って製作され、高品質オフセット印刷と高度な色安定性を提供してくれる。それはリョービ 3403 DI を取りこみ、彼らの仕様に調整し直したとように見うける。現在の 3404 DI 機はサテライト V 型で、5 胴配列になっていて、中央に 3 倍圧胴があり、2 対の倍胴ブラン胴と版胴がそれに付いている。2 つのプレステックの ProFire™ が組みこまれたイメージング・システムが機械に取りつけられている。各イメージャーは 1 つの版胴上にある 2 つの版、2 つの色をイメージングする。プレステックにより開発された ProFire™ マルチビーム・レーザーはイメージング・システムに組み込まれている。2 つの異なるドットサイズ、50 ドット/mm の 28 μ と 100 ドット/mm の 21 μ が使える。オペレーターは必要品質に応じてどちらでも使える。21 μ 点サイズは 200 線相当の解像度を得られる。ユニークな各々の ProFire™ レーザー・ダイオードは単一レンズを通し 4 つの光束を発する。この高速で新しいレーザー技術で、イメージング時間は極端に短縮し、1270dpi(50dpm)で 2 分 20 秒、2540dpi(100dpm)で約 4 分 30 秒ですむ。3404DI 機はインキローラ・ブランケット・圧胴の自動洗浄装置それに、版の巻き出し・イメージング・印刷・洗浄に至る全印刷工程を流す自動印刷システムなどの多様な自動省力化装置を備えている。ボタンを一つ押すと自動的に次の仕事の版に進む。旧版が版胴内のロールに巻きこまれる一方で、新版が胴に装着される。3404DI 機はプレステックの PEARL dry™、水なし版を使っている。1 ロールで 28 版が取れる。IR 乾燥装置はオプションとしてあり、裏刷りへの乾燥短縮につながる。版とイメージング技術に触れないと言うなら、KPG 社はどうにもこの新しい機械の特色付けをしようとしているのか興味深いものだ。プレステック社のマーケティング担当副社長 Brian Wolfenden と話して見た。彼の見解では、DI 機は隙間製品ではなく、プレステック社が印刷界の主要な製品群の供給者となってきていることを、この協力関係は物語っている。DI 機は側面にあるトナー機とか大判 CTP 装置の分野でも収益性が出るとの考えを、KPG 社が巻きこまれたことで、見直されてこうとしている。Wolfenden によると、DI 機とトナーベースの機械とは互いに誉め合うことになるの

だ。トナーベース機は 500 部以下の仕事に適している。印刷物へのパーソナリゼーション(個人対応)がますます盛んになるが、4 色 DI 機で印刷して、それをトナー機にかけてパーソナリゼーション処理をしていこう。

KPG 社のニュースリリースでは、KPG 社世界統括の副社長、John Schloff は、「KPG 社はデジタルワークフローへの移行をめざす顧客支援を重ねることを約束する」と言っている。今日の C T P とデジタル印刷製品の開発運用が DI 機にまで食い込んできている。

新オーナーがアダストに息吹きを吹く

3 月 11 日新聞発表で Adast a.s.社は戦略的な新オーナーを迎え、社名も Adast に変えた。新オーナーは PENTA でチェコスロバキヤ共和国でももとは営業していた、金融的に強い、個人投資会社である。報道では、PENTA の目指すゴールは既存の生産計画を維持しつつ、ビジネスの安定、活性、発展を図ることだ。PENTA によって投資されたかなりの資本は、技術革新への発展、マーケティングと営業活動支援、会社組織・経営管理にまたがる広範囲な会社再構築へ向けられる。アダストは中央東ヨーロッパでは最大の印刷機械メーカーで新しいオーナーの参入とは、同社の新時代の始まりと期待されている。Adast a.s.社はサービス、技術コンサル、その他のサービスをも保証してくれる。アダストの新営業担当役員、Milos Kromp は「アダストオフセット印刷機の顧客・ユーザーに、印刷機メーカーとしての立場から、あらゆる責務を高めるものとする。また、我々の成功の鍵である顧客・ユーザーにより密着して行く。」と述べている。

パリの GRAPHITEC 2003 展での水なし KBA 社の GENIUS 52(ジーニアス 52)

2003 年 3 月 19~22 日、パリで開催された Graphitec 展で、新型 B3(36 x 52cm) KBA 社のジーニアス 52 がフランスで始めてライブ実演がされた。コンパクトな B3 判 4 色機と 5 色機はキーレスインキング装置、見当装置内臓の自動給版装置、幅広い紙が通せる融通性を備えている。本機は用紙では 0.5mm まで、プラスチックだと 0.8mm までを受けつける。最初の複数の試作ジーニアス 52 機は、J B A のパートナー Metronic AG で造られたが全て、完売された。Metronic の限られた生産能力により、K B A はドイツの Radebeul にある、枚葉機工場に製造組み立てを移そうとしている。

できごと

今月の W P A の新入会員、日本栃木県のダイサン、社長・斎藤正治氏を歓迎致します。